

第8次行政改革期間の取組等について

財政見通しにおける収支不足を踏まえ、令和4年度から令和7年度の4年間に於いて、人件費をはじめとした内部経費の削減を実施した上で、抜本的な事務事業の見直しを進めるとともに、新たな財源確保に努めてきました。

こうした取組により、大河ドラマ「光る君へ」を契機とした様々な観光振興施策をはじめ、西小倉地域における小中一貫校や中学校給食の実施に向けた給食センターの整備事業など、時期を逃さず新たな施策を進めることができました。

(単位 億円)

	財政見通し				実績 (=当初予算)			
	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度	5年度	6年度	7年度
歳入	649.6	653.5	655.2	656.2	668.3	683.6	742.8	841.1
歳出	669.0	661.8	665.8	667.9	668.3	683.6	742.8	841.1
差引	△ 19.4	△ 8.3	△ 10.6	△ 11.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	△ 50.0 + 新たな行財政需要額△20.0 = 70億円の財源の確保				0.0 予算編成において収支不足を解消			

区分		4～7年度計		
		財政見通し	予算	予算－見通し
歳入	一般財源	1,461.5	1,607.5	146.0
	市税	939.7	983.3	43.6
	地方交付税	309.5	376.0	66.5
	その他	212.3	248.2	35.9
	国府支出金	764.6	828.8	64.2
	市債	191.9	309.0	117.1
	うち臨財債	101.1	40.4	△ 60.7
	基金繰入金	28.8	31.2	2.4
	その他	167.7	159.3	△ 8.4
	合計	2,614.5	2,935.8	321.3
歳出	義務的経費	1,595.1	1,633.6	38.5
	人件費	550.6	568.1	17.5
	扶助費	834.9	860.5	25.6
	公債費	209.6	205.0	△ 4.6
	投資的経費	179.6	338.6	159.0
	その他	889.8	963.6	73.8
	新たな行財政需要額	20.0	上記に含む	△ 20.0
	合計	2,684.5	2,935.8	251.3
歳入－歳出		△ 70.0	0.0	70.0

主な行政改革の取組

人件費等の見直し9.3億円、事務事業の見直し10.7億円、財源の確保17.6億円

(単位 億円)

	財政見通し 7年度末	実績 (見込み) 7年度末	差引
市債現在高	432.1	479.1	47.0
基金現在高	70.0	93.2	23.2

市債については、積極的な投資的事業の実施に伴い、現在高は増加しましたが、世代間の負担の公正性などの観点から、借入期間等に留意しつつ、後年度の公債費償還額について、調整を図りました。

基金については、宇治市独自の物価高騰対策などに活用する一方で、交付税の追加交付等を踏まえて積み立てを行い、現在高の確保に努めました。